

小学校における職業体験学習に関する実践的研究

嘉納英明*

A Report on the Vocational Learning Experience for the 6th Grade Class at the Elementary School Attached to the University of the Ryukyus

KANO Hideaki

ABSTRACT

本研究は、職業体験学習（小学校6年生対象）を「総合的な学習の時間」の中で展開し、職業体験のもつ教育的な効果について基礎的な資料を収集する目的で実施したものである。子どもたちは、学校近郊の職場訪問、インタビュー等のフィールドワーク、子ども相互の意見交流等をふまえて職業体験に参画し、職業のもつ厳しさや楽しさ、働く人々の生きがいを地域の人々との交流を通して学んだ。今回の職業体験は、子どもの職業観を豊かにし、働く意味をみつめ考えさせる機会となった。

1、はじめに

(1) 県内公立中学校における職業体験の動向
近年、中学校におけるインターンシップ体験（職業体験学習）の重要性が広く認識され、取り入れ始められている。これは、「豊かな人間性と社会性を育む」ための教育活動の一形態として注目され、また、今年度成立した「教育三法」の中にボランティア活動（自発性・社会性・無償制）が挿入されたことで今後益々重視される領域になるものである。この職業体験学習（以下「職業体験」と略）のねらいを筆者の理解に即してまとめると、①地域の様々な職場で働く人々との交流を通して、子どもが主体的に職業観と勤労観を育む機会とするものであり、生産的・創造的活動の面白さや重大さを学びとれるような共同的な体験学習や職業（キャリア）教育を地域社会に期待していること、②子ども

自身に進路と職業を選択させる力の育成を図るものであること、③子どもが自らの職業観・労働観に基づき、主体的に職場体験の場を選択し行動し、内面化していく過程であること、ととらえることができる。こうした職業体験の導入は、これまでの学校教育における進路指導の再考を迫るものであり、また、子どもの職業体験の充実を図るための支援体制を学校と地域社会が共同的に担おうとする意味において重要である。

ところで、県内でいち早く職業体験を実施したのは、浦添市立浦添中学校（1999年）、那覇市立仲井真中学校（2000年）等である。これらの学校では、中学生の当面の目標である高校進学と生徒自身の人生設計をいかに結び付けるかが議論され、将来の夢を育む手段として職業体験を位置づけている点が特徴的である。こうし

*琉球大学教育学部附属小学校

た職業体験を包括した進路指導が検討された社会的な背景には、県内の高校中退率の高さ、高校卒業後の進路未定者の増加、若年層の失業率の高さが顕在化しているからである⁽¹⁾。一方、教育委員会企画の組織的な職業体験を始めたのは、嘉手納町（2000年）であり、西原町・具志川市（2001年）と続いている。1998年度から兵庫県で始まった「トライやる・ウィーク」をモデルとした嘉手納中学校の職業体験は、生徒が希望する町内の役場や食堂、百貨店、食品製造業等で3日間体験学習を行うものである。同中学校の職業体験の教育的効果を調査した松本哲（沖縄県立教育センター）は、①8割以上の生徒に充実感が得られ、7割以上が再度体験学習をしたいと答えていること、②「親の苦勞がわかった」「これまで以上に家の手伝いをしなければいけないと思った」等の因子項目は、最も高い数値を示し、親や家族に対する愛情の念が育成されたこと、③男子は生産関係や公共施設、女子は保育やサービス関係の職種への希望が多かったこと、④体験学習中の家庭での話し合いが多いほど、体験学習の効果が大きいこと、等の興味深い分析結果を報告している⁽²⁾。西原町では、町内2中学校の生徒が5日間、「チャレンジ・ウィーク」と称し事業所、福祉施設、農家等で職業体験し⁽³⁾、具志川市内の4中学校は、平成12年度より文部科学省の研究開発指定校としての役割を期待されている。

以上の職業体験に関わる県内の動向をみれば、次年度以降、「総合的な学習の時間」等を活用した新たな職業体験の展開と急速な広がりが見期待できる⁽⁴⁾。

(2) 子どもが期待する職業体験の内容

地域で働く人を訪問したり、働く人を教室に招き、仕事上の苦勞や工夫、願いを子どもたちに語って頂いたり、教室の中で職人技を再現して頂いたりする授業は、これまで社会科や特別活動、道徳の授業の中で熱心に取り組まれてきた。しかしながら、働く人々を職場から切り離れた場での「語り」や「職人技の再現」は、職場のもつ独特の雰囲気・緊張感を子どもたちに

十分に伝えることができず、「本物」にふれさせる意味合いからは限界があった。子どもが地域へ飛び出し、地域で働く人々と直接ふれあうことにより、その「職業」のもつ社会的意味や働く人々の工夫や願いを、職場のもつ独特の雰囲気・緊張感の中で感じ取らせることが大切であり、自己の職業観をみつめ、将来の生き方を考える機会になるものと考え。この点と関わって、子どもが職業体験に期待するものは何であろうか。職業体験の事前調査（「職業体験から何を学びたいのか」2001年4月19日実施、対象者：琉球大学教育学部附属小学校6年2組の児童37名）として、選択回答（7項目から3つ選択）の結果、「仕事の楽しさや願い」（22人）、「なぜ、その仕事に就いているのか。その仕事の魅力、やりがい」（21人）、「仕事に必要な知識や技能」（20人）、「仕事を通しての人とのかかわり」（16人）、「仕事の内容」（13人）、「仕事の厳しさや責任、苦勞」（12人）、「他の人に対してどのように役だっているのか」（7人）の順位であった。

事前調査から指摘できることは、子どもたちは、対象とする職業のもつ特性や魅力・内容に関心を示し、職業を通して得られる喜びや責任、そして必要とされる知識や技能を、体験学習を通して学びたいとするものである。典型的な子どもの声で綴ると、「仕事をして、お金をかせぐことが大変だということ。身の回りのちょっとした事だけど、とても必要な仕事だということ。職業体験を通して、仕事には責任があり、とても大変であることを知りたい。」「仕事をやるためには、どれくらいの知識が必要とか、どんな技術が必要かなど、まだ知らないことがいっぱいあると思うから、職業体験などを通していろんな技術や知識等を学んでいきたい。」「どうしてこの仕事に就いて、どこにひかれたのか（この仕事をやる原動力）とか、一言で言えば、この仕事に対する思い（たとえ、しかたなく入ったとしても仕事と向き合うことで思いが生まれると思うので）を聞きたい。」等を挙げるができる。

以上の子どもの職業体験から学びたいとする

意向をふまえて、琉球大学教育学部附属小学校 6年2組（嘉納学級）では、「総合的な学習の時間」の中で、職業体験を計画し実践した（「表1. 指導計画」参照）。本報告は、①学校近郊の職業発見～働く人々を訪ねて～、②「職業発見」を学び合う～ポスターセッションを通して～、③子どもの発想を生かした職業体験の実際、④職業体験の教育的効果の調査、以上の実践報告とそれに対する分析をすることで、小学校における職業体験の教育的効果を実践的に明らかにしようとするものである。

2、学校近郊の職業発見

～働く人々を訪ねて～

本校の校区は8市町村にまたがるため、子どもの主な通学手段は、自家用車やバスである。そのため、子どもたちは、学校近郊の地域情報や地理的状况にふれる機会はほとんどなく、また、授業実践においても学校近郊を地域学習の

対象としてとらえ、地域を歩き、発見し、学習活動を組織化し展開することはこれまで十分とはいえなかった。そこで、学校近郊を歩き、地域で働く人々の発見をすることから本授業実践は始まった。毎週木曜日の午後2時間の「総合学習」の時間を活用し、地域で働く人々の発見学習は、2週連続全2回（総時数4時間）実施した。子どもたちは、「いろいろな仕事があって、いろいろな役割があること」、「お店やお仕事にも工夫や発見がいっぱい」、「意外と飲み物屋とか、食べ物屋が多い」、「みんな好きな仕事をとても頑張っていること」、「大人は楽しんでいると思いましたが、そうじゃないことを知った」等、学校近郊を歩く中で、素朴な感想を寄せてきた。4～5人のグループ編成後、生産、サービス、保育、文化の職場を訪問し、インタビューや短時間の交流を経験後、子どもたちは次のような発見・学びを記している（次頁「表2. 学校近郊の職業発見」）。

表1. 指導計画（34時間）

6年2組（総合的な学習の時間）20時間			コンピュータの時間 14時間
学習の流れ	学 習 活 動	配当時数	
ふれる活動 ↓	第一次 地域で働く人々 ○学校近郊の職業発見～働く人々を訪ねて～ ○「職業発見」を学び合おう ～ポスターセッションを通して～	【7時間】 4時間 3時間	
	○ホームページにのせて発信しよう	◎コンポーザーを活用しての情報発信 ●情報の収集 ●ネットワークの活用 ●画像の収集 (2時間)	
働きかける ↓	第二次 職業体験の試み ○「職業体験」の計画をたてよう ○「職業体験」の場をみつけよう ○挑戦！！ 職業体験	【13時間】 2時間 1時間 10時間	
発信する ↓	第三次 職業探検をふりかえる ○セッションの準備をしよう ○みんなに紹介！！ 職業探検 ○情報発信	◎コンポーザー及びパワーポイントを活用してのプレゼンテーション、ホームページビルダーを活用しての情報制作 ●データのまとめ ●画面の構成 ●サウンド・動画制作 (6時間) ◎プレゼンテーション及びアンケートソフトを活用しての発表と学習活動のふりかえり (4時間) ◎ホームページで情報発信 (2時間)	

表2. 学校近郊の職業発見

職種分類	職 種	子どもの発見・学び
生 産	建 材 店	たくさんの人が、木材を切ったり、まとめたりしていた。
	自動車整備工場	暑中、車の整備を頑張っていた。修理工のおじさんは、手も服も顔も油まみれになって修理していた。
サービス	ハンバーガー シ ョ ッ プ	仕事分担がされている。お客のことを第一に考え、トイレも清潔であった。ハンバーガー以外にも「元気」も売っている。レジと皿洗いを同時にしている。仕込み（野菜の仕入れや野菜を切ったりする人）・セッター（ハンバーガーを順序よく作ったり、ポテトを作ったりする人）・キャッシャー（レジで注文を受けたり、計算する人）等の役割分担をして早く仕事が進むように工夫している。
	携 帯 電 話 シ ョ ッ プ	店の雰囲気をよくするために飾り付けにも気を配っている。学割あり、多種多様な携帯電話の陳列、修理もする。働く人は少ないけど、頑張っている。客が来るとしっかり説明をしている。飲み物のサービスをしていた。水に強い携帯を売っていた。
	コンビニエンス ス ト ア	客の身になって喜ぶことを第一に考えている。商品を並べたり、清掃をしたり、レジの点検をする人がいた。レジの人は笑顔で対応していた。「未成年の酒は禁止」の貼り紙があった。種類毎に品物が陳列されていた。同じコンビニでも場所によって売っているものが違う。店の人は、どんなサービスをしたら喜んでくれるかを考えている。立ちっぱなしで大変だ。どういうふうにしたら品物が売れるのかも考えている。朝早くから品物を並べている。
	ス ー パ ー	いつも新鮮な野菜。商品の並びかえ、ラベル貼り。
	ガソリンスタンド	雨が降ってもお客さんの車にガソリンを入れていた。
	学生サービス セ ン タ ー	学生のバイトを紹介していた。アルバイト情報を売っていた。将来、使えるかもしれないと思った。大学の近くにあるので、良いのではないか。
	ビデオショップ	繁盛しているようだった。
	リサイクルショップ	商品が山のようにあった。
	コインランドリー	誰もいなかった。
	仕 出 し 屋	弁当を作る、レジをする、清掃をするに分かれて仕事をしている。出来るだけ早く弁当を作ろうとしていた。注文がたくさんあって、大変そうだった。
	カードゲーム店	たくさん種類のカードを並べていた。
	キーセンター	「24時間出張します」のビラがあった。家のカギを作るのが大変そうだった。合カギ、電子キー等を出張制作していた。
	中 古 車 店	学校の近くには、中古車店が多かった。洗車したり、車を売ったり、修理をしたりする人がいて仕事に役割分担があった。
	クリーニング屋	普通、その店で洗うのではなく、関係のある工場に渡し、もどってきた服を客に返す。取次店である。
保 育	保 育 園	小さい子の世話は、大変そうだった。泣いている子どもをなだめていた。保育さんは朝早くから来て、遅くまで子どもの相手で大変そうだった。小さい子どもの命を守る大変な仕事だ。赤ちゃんのオムツを替えないといけないので大変そうだった。保育さんが子どもと一緒に歌を歌って楽しそうだった。子どもを昼寝させていた。保育園では、いろんな人の働きがあって安心して過ごせる。
文 化	学 習 塾	塾長は、ボランティアで子どもに教えていた。生徒が来る前から準備をしていた。

学校近郊の職場を訪問しての子どもの発見は、働く人々の具体的な姿であり、その姿を通して、その職場や職業のもつ苦勞や工夫にふれるものであった。これら子どもの職業発見は、他の子どもとの質疑・意見交流により職業に対する多面的なとらえ方が期待できるものと考え、次に、ポスターセッションを実施した。

3、「職業発見」を学び合う

ーポスターセッションを通してー

学校近郊で働く人々を訪問した子どもたちは、各グループ毎に、発見したことを中心にまとめたポスターを制作、セッションに望んだ。ここでは、特に、活発な議論が展開されたハンバーガーショップと保育園を訪問したグループの発表から子どもが何を学んだのかについて述べる。

(1) ハンバーガーショップのセッション

ショップを訪問したのは、男児3人である。3人の発見・学びは、表2に記載された通りの「お客第一主義」「効率的な仕事分担」がなされていることを発表し、討論を展開した。セッション後の子どもの学びは、次の声に表れている。

- ・ハンバーガーショップでは、長野県でとれた野菜を売っていることや、一日420名が店に来ていると聞いたので、ビックリした。
- ・「この店は、ここがすごいんだ」と分かりやすくまとめていいなと思いました。また、きっちりと働く人とかがまとめられているところがいいなと思いました。あと、材料の原料や無農薬とかを大きな声で言ったり工夫がされて良かったと思います。
- ・バーガーショップで工夫しているところは、ドライブスルーで人を待たせないことでした。私のビックリしたことは、ショップで働いている人は、30人います。作っている人は、20人くらいいるそうです。

(2) 保育園のセッション

保育園を訪問したのは、女児3人である。学校と隣接している保育園であるが、これまで訪れたことがなかったようである。保育園を訪問した女児は、「乳幼児の世話の大変さ」「保育さんの仕事が多岐にわたる」こと等を発表し、討論を重ねた。セッションを通して子どもたちが

学びとったことは、以下のようなことである。

- ・学童は、子どもが学校が終わって、預かるだけじゃなくて、1年生だったら数を教えたり、2年生だったら、足し算とかを教えるそうです。学童は、学校が終わって預かるだけと思っていたけど、こんなことまで教えるんだなあと感じました。
- ・まず、私たちのグループが調べていないことを調べていた。例えば、保育園にいる人の人数とか、学童でやっていることとかがあつてよかった。あと、先生達は、子どもの笑顔がうれしいっていいんだけど、〇〇さんもそうだった？って聞いたとき、本当にそうだったって言ったので、いいなあと思った。
- ・保育園の保育さんのことについて、保育さんの大変なところをいろいろ聞きました。保育さんたちは、毎日、小さい子どもたちの面倒をよく見ていて、子どもたちが言うことを聞いてくれないと困るそうです。でも、年を感じさせない、とセッションのポスターに書いてあるし、子どもたちがかわいいという保育さんもいて仕事が大好きなんだなと思いました。



保育さんのお仕事発見

子どもたちは、他の子どもの職場訪問をポスターセッションを通して学び合い、それは、例えば、ハンバーガーショップの原材料の仕入れの工夫や客に対するサービスの面の配慮を学んだり、保育の仕事上の苦勞や喜びを子ども同士が教え合っていることに表れた。ポスターセッション後、子どもの中から、職場を訪問したり、インタビューするだけではなく、実際に職業を体験したいと願う子が出てきた。話し合いの結果、授業の一環として学級全体で職業体験に取り組むのは2学期中とし、子ども独自の計画による職業体験は夏休み中の自由研究とした⁽⁵⁾。

4、子どもの発想を生かした職業体験の実際

(1) 職業体験の実施に至るまでの経過

学級全体で取り組んだ職業体験は、2学期に実施した。その際、学校を中心とする半径1km以内で職業体験をすることにした。体験学習中、子どもが体調不良になった場合、徒歩にて帰校できる距離であり、万一の事故に対応できる距離だと判断したからである。子どもたちはグループを編成し、興味関心のある職業や店舗と受け入れについて折衝した。授業者の支援としては、「職業体験学習の趣意書」の作成と受け入れ先との折衝の仕方であった。グループ毎に「趣意書」を携えて、受け入れについて折衝し、受け入れが決まると、後日、正式な文書で

確認するという手続きを踏んだ。下表は、子どもの受け入れ先一覧である。

職業体験の期日は、2001年11月1日～2日の2日間。初日は、午前9時から午後4時、二日目は、午前中の体験とした（受け入れ先により、若干の時間変更あり）。女子全員と男子の一部が受け入れ先での昼食を希望したため弁当持参となり、その他の男子は、昼食時間になると学校で給食をとった。授業者は、緊急時に備えて、①授業者の携帯番号の子どもへの通知と公衆電話代を子どもに持たせる、②自家用車による巡回、③午前と午後、それぞれ1回、電話連絡を子どもに義務づけさせることであった。以下、各グループの受け入れ先での活動の様子をまとめた。

受け入れ先名	児童数	昼食
○モスバーガー 沖縄西原店	男子4名	給食
○琉大前給油所	男子4名	給食
○大育幼児学園	女子3名	弁当
○りんご保育園	女子8名	弁当
○ホットスパ 琉大南口店	男子3名	給食
○絵本と木のおもちゃ店「トムテ」	女子3名	弁当
○ローソン 琉大病院前	男子4名	給食
○県立埋蔵文化財センター	男子4名	弁当
○花と化粧品のお店「多香」	女子4名	弁当


(2) 各グループの活動の様子

①受け入れ先 モスバーガー 沖縄西原店

②児童数 男子4名

③活動の概要 モスバーガー 新入スタッフのためのビデオを視聴後、早速、厨房に立ち、レタスを洗ったり、氷を補充したりした。モス専用の鍋を洗ったり、手製のチラシを近郊に配ったり、トイレの清掃も頑張った。2日目は、店長の計らいで好きなハンバーガーを作り試食してもよいとのことで、思い思いのオリジナルハンバーガー作りを楽しんだ。このオリジナルハンバーガー作りが印象的であったようである。

④子どもの声 今日は店で使う紙を切ったり、野菜を洗ったり、ウーロン茶を作ったり、洗いものをした。最後に、自分たちでハンバーグを作って、食べた。ジュースも頂いた。とてもおいしかった。



①受け入れ先 琉大前給油所

②児童数 4名

③活動の概要 朝の発声練習の後、スタッフの指導により車にガソリンを入れたり、洗車機を操作したりした。お客から現金を受け取り、レジ打ちも経験した。マット洗いや手製のチラシ配り、ゴミ捨て、車の窓拭き等の地道な仕事内容にもふれた。「ありがとうございました」「またのご来店をお待ちしております」等のスタンド内のアナウンスにも積極的に参加した。車への給油が印象的だったようである。

④子どもの声 2日目、車を洗う専用の放水銃みたいなものを使った。汚れがよくとれた。洗車機の中にも入った。それからいつも通りにあいさつ、アナウンスもスムーズにできた。元気な声が必要です。



①受け入れ先 大育幼児学園

②児童数 女子3名

③活動の概要 乳幼児の相手から始まった女子3名は、昼食やおやつをあげたり、子どものお昼寝のために添い寝をしたりした。一緒に玩具で遊んだり、泣いている子をあやす等をしてきた。2歳児の体を拭いたり、紙芝居を読んだり、ビデオを見せたりと、多岐にわたる保母の仕事内容にふれる2日間であった。

④子どもの声 今日は昨日と違って3～4歳の子どもの世話をしました。あんまり言うことを聞いてくれないし、でも叱ったら、泣いたりするので大変でした。子どもの中には、言葉がはっきりしている子とか、あいさつもできる子どももいて、びっくりしました。いろんな子どもがいて、保母さんも大変です。

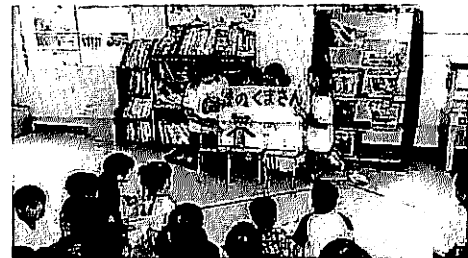


①受け入れ先 りんご保育園

②児童数 女子4名×2グループ

③活動の概要 2つの女子グループ8名がりんご保育園で体験学習を経験した。数日間かけて制作した紙芝居やゲーム、手製のメダルを準備しての積極的な参加であった。紙芝居のタイトルは、「森のくまさん」である。乳幼児に昼食をあげたり、紙吹雪をして一緒に遊んだり、お昼寝のために添い寝をしたりする等、小さな保母さんとして活躍した。幼児の着替えを手伝ったり、トイレに行かせたりもした。

④子どもの声 今日は一番小さい子を担当した。新聞をちぎって紙ふぶきをして遊んだ。あと、昨日は添い寝をして眠らせることができなかつたけど、抱っこしたら眠ってくれた。とても嬉しかった。小さい子はとてもかわいかった。



①受け入れ先 ホットスーパー琉大南口店

②児童数 男子3名

③活動の概要 店内外の清掃、レジ打ち、商品の補充、手製のピラ配り等の一通りの仕事内容を経験した。おでんや肉まんを準備したりもした。レジ打ちが印象深かったらしく、お客さんを待たせることなく、スピーディにそして正確にお釣りを渡すことが大切であることを学んだようである。気温が下がるとおでんが売れ出すことも経験的に学んだ。

④子どもの声 今日(2日目)の職業体験で一番印象に残ったことは、2つあります。ひとつは、冷凍庫に入って後から品物を入れることです。冷凍庫の後側は、結構寒かったです。ふたつめは、レジをやって昨日より声が大きく出せたことでした。大きな声であいさつすることは、客を相手にする店では大切なことです。



①受け入れ先 絵本と木のおもちゃ店「トムテ」

②児童数 女子3名

③活動の概要 店内の清掃から始まり、クリスマス関連本の棚入れ、スタッフの乗用車にて公立小中学校への配本、パソコンで本のカード作り、売り上げカードの準備、ダンボールへの本の収納等の仕事をした。クリスマスツリーの飾り付けもした。あらかじめ風船を準備し、小さな来客にはサービスした。

④子どもの声 今日はクリスマスの本を出したり、クリスマスツリーを出したりしました。本が多くて棚に並べるのが大変でクリスマスの飾り付けも大変でした。準備が終わると売り上げカードを100枚ずつ束ねて印鑑を押したりしました。疲れたけど、やりがいのある仕事でした。本屋の仕事は意外にもけっこう多かったです。



①受け入れ先 ローソン琉大病院前

②児童数 男子4名

③活動の概要 トイレ清掃や棚拭き等の店内外の清掃から始まり、棚の整理と商品補充、冷蔵庫への飲み物の補充等、搬入作業を試みた。また、ローソンスタッフの計らいで商品である「からあげくん」やフライドポテトを揚げて試食もできた。これが子どもにとって印象的であったようだ。手製のチラシも準備していたが、ローソン会社専用のチラシ以外の配布は認められていないということで手製のチラシは配布中止となった。残念。

④子どもの声 今日(2日目)、一番心に残ったことは、自分たちでフライドポテトとカラアゲクンを作って食べたことです。どのように作るのか教えてもらって面白かったです。もう一度、行ってみたいです。



①受け入れ先 県立埋蔵文化財センター

②児童数 男子4名

③活動の概要 埋蔵文化財センター内での開所式から始まり、センター内見学、発掘作業、遺物洗い、火おこし体験学習をした。特に、文化財センターのスタッフの引率で首里城発掘現場に行き、短時間ではあるが、そこで発掘作業を経験した。自分たちで発掘した一部は、持ち帰りが許され、学校内に設けられた「社会科資料展示コーナー」で陳列した。

④子どもの声 首里城に行って、発掘作業をした。自分たちがやったのは、石でしきつめた道の復元。力より、集中力を必要とした作業だった。貝を見つけたり、瓦のカケラを見つけたり、古い城壁に穴を見つけて、そこに顔を近づけると風が来るので、どこかにもうひとつ穴があるとわかり、我ながらいい発見をした。カメラの遠隔操作の方法も知った。



①受け入れ先 花と化粧品のお店「多香」

②児童数 4名

③活動の概要 朝のミーティングから始まり、店内の棚拭きや店外の清掃、花入れ・花瓶洗い、根切り、生け花・アメリカンフラワー作り、チラシ配り等の多様な仕事内容をこなした。また、女性店長の好意で那覇市の花の卸市場まで引率してもらい、花のセリの見学をした。体験学習後、自己負担でアメリカンフラワーの講習を受講した。

④子どもの声 根切りをやったり、店のチラシ配りをしたことが印象に残りました。最後にみんなでアメリカンフラワーの色つけをしたのと、先生（新城さん・店長）に教えてもらいながら小原流の生け花をやったことが楽しかったです。初めて体験したアメリカンフラワーと小原流は、とても嬉しく感激でした。



9つのグループに分かれ、2日間の職業体験を終えた。子どもたちは、様々な職種の方との交流を通して、「職」の意外な面をみたり、働く人から丁寧な「職」指導を受けることで、学校（教室）外での学びの多さと深さに感動した。次節では、職業体験の教育的効果を分析することで、職業体験を評価し、成果と課題を析出したい。

5、職業体験の教育的効果の調査

(1) 調査の目的

本調査は、平成13年11月1日～2日の2日間、附属小学校近郊で実施された職業体験の教育的効果を検証する目的で行われたものである。設問は、13項目であり、A. 職業体験に対する児童の評価（2設問）、B. 勤労観（6設問）、C. 父母に対する勤労観（3設問）、D. 自己変容の認知度（1設問、自由記述）、E. 体験学習に対する要望（1設問、自由記述）とした。

(2) 調査の方法

1 調査対象

琉球大学教育学部附属小学校6年2組の児童（男子19名、女子18名、合計37名）

2 調査実施日

職業体験学習後（11月8日）

(3) アンケート調査結果

総合所見

○職業体験の満足度は高く、再度挑戦したいと願う子どもが圧倒的に多い。次回は職種の変化する場で体験学習をしたいと願う子もいる。

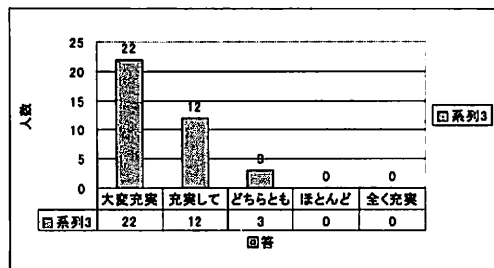
○子どもたちは、職業体験を通して、協力し支え合うことの大切さを学び、大人は、自分の仕事に責任をもって頑張っていることに理解を示した。また、自分の親（父母）の大変さ、賃金を得ることの苦勞について理解し、働くことの意味と大変さについて考える機会となった。

○学級全体の2/5の子が、職業体験を通しての自己の行動の変容を示した。

○職業体験に対する子どもの要望は、日数を増やして欲しいこと、受け入れ先は広範囲の中の様々な職種から選択できるようにすること、受け入れ先は、職業体験の意欲を高め満足させるメニューを準備して欲しいことを求めている。

A. 職業体験に対する児童の評価

問1 職業体験学習は、充実していましたか



「問1」に対する子どもの声は、以下の通りである。（抜粋）

【大変充実していた】

<県立埋蔵文化財センター>

○埋文センターの本当の仕事「発掘」ができたから。手伝い以外にもセンターの他の所も教えてもらったから。

<モスバーガー>

○働く人には苦勞と責任がたくさんあるということが分かった。

<花屋>

○花のセリにも連れて行ってもらったり、根切りをさせてもらったり、いろんなことを初めて知ったり体験したから。

○お店の人も快く受け入れてくれたし、みんなで協力できたし、積極的に行動できたと思う。私たちのアイデアが、お店の働き（評判）にこうけんしたと思うから。

<トムテ>

○今まで知らなかった仕事に分かったし、仕事の大変さも分かった。いろんな人とふれあうことができたので、大変充実していた。

○やりたかった仕事が出来たし、本屋の楽しさも大変なことも分かった。

<りんご保育園>

○子どもたちと遊んだり、食事したり、片づけと勉強をしてとても楽しかった。子どもたちは、かわいいから面倒見て楽しかった。

○保育園の子どもたちといろいろふれあって遊んだり、勉強したり、着替えさせたりしてとても楽しかった。保育園の子と仲良く遊べてとてもうれしかった。

<ローソン>

○実際に（ローソンで）からあげやポテトを作ったから。

○ローソンでそうじをしていて、もっときれいにしたいと思うようになってきたから。

<ホットスパー>

○やりたかった事もできたし、冷凍庫の中に入ることもできたのでとても充実していた。

○とても楽しかったし、働いている人は、結構疲れるんだなあということ。

<ガソリンスタンド>

- ガソリンスタンドでは、給油ができたし、ふだん使えない機械も使えたから。
- ガソリンを入れたり、車のマットを洗ったりして面白いことができたり、将来は、こんなことをするんだなあと思い、充実した。

【充実していた】

<県立埋蔵文化財センター>

- 遺物洗いも楽しかったし、発掘作業も楽しかったし、埋文センターの人とのつきあいも楽しかった。また、センターのそうじも楽しかった。
- 火おこしはちょっと難しかったけど、火をおこすのがとても楽しかった。

<モスバーガー>

- いろんなことがわかったし、自分たちでハンバーガーを作ってみたら、とても勉強になった。
- 2日目は、終わる時間がきても、もっと働きたかった。

<トムテ>

- いろいろな仕事があって、お客さんにものをあげたりして楽しかった。

<りんご保育園>

- やっていると色々なことが分かったし、保母さんからもいろいろ教えてもらった。

<大育幼児学園>

- 保育園に行って、勉強になる所が多かった。

<ローソン>

- ローソンがやっていることを自分たちである程度できたから、結構充実していた。
- 頑張って仕事した。

<ホットスパー>

- お客さんがよく来て、いろいろな仕事ができたら。

【どちらとも言えない】

<大育幼児学園>

- 自分たちが体験学習をして勉強になったことはいろいろあるけど、楽しいというより大変だったし、でも少しは楽しかったという気持ちもあったので。

<ガソリンスタンド>

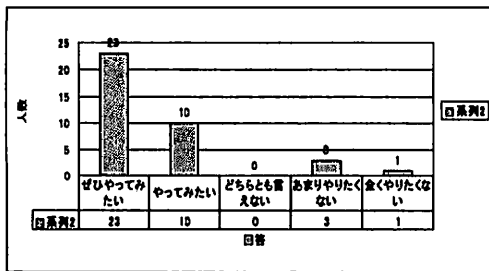
- 楽しい時もつらい時もあるって、充実していたのか、していなかったのか、わからない。

<考察>

職業体験を通して、働く人の苦勞や責任、大変さにふれ、また、初めて知ったことやこれまで体験することができなかったことが実際に体験できたことを積極的に評価している。「大変充実していた」「充実していた」と回答した子は、34名であり、全体の9割を超えている。

問2 このような体験学習があれば、またやってみたい
ですか

「問2」に対する子どもの声は、以下の通りである。(抜粋)



【ぜひやってみたい】

<県立埋蔵文化財センター>

○発掘作業や火おこし、遺物洗い等いろんな体験ができてとても楽しかった。

○体験学習はいろいろなことがわかるし、面白い。仕事に熱中できたからまたやってみたい。

<モスバーガー>

○今回はモスバーガーだったので、次はガソリンスタンドとか、他の所でしたい。

<花屋>

○職業体験をやって、自分の個性を生かすことができ楽しかったから。

○店の人がいろいろと体験させてくれたり、教えてくれたので、また、体験学習をしたいです。

<トムテ>

○他の仕事の大切さや大変さを知りたいし、もっと人とふれあう機会があったらいいと思うから。

○みんなの報告を見て、他にも楽しそうな仕事があったので。

<りんご保育園>

○保母さんの仕事をして、とても大変だったし、他の経営している所の大変さを知りたい。

○今回は保育園で小さい子を相手にして遊んだりしたから、次、職業体験ができれば、お客さんを相手にした店でやってみたい。

<ローソン>

○いろんなことが学べそうだからやりたい。

○人にめいわくをかけないような頑張りが、また増えると思うからやりたい。

<ホットスパ>

○僕はホッパーに行っているいろいろな楽しい経験になったので、もう一度やりたい。

<ガソリンスタンド>

○別のグループは何をしているのかと思い、他の所もやってみたいなあと思った。

○ガソリンスタンドの他に、もっと見ていない所や使ったことがない物を体験したい。

【やってみたい】

<モスバーガー>

○いろいろなことが分かる仕事を自分で見つけてやってみたい。

○とても楽しかったし、仕事の大変さとかがよく分かったから。

<花屋>

○「ぜひやってみたい」と思わなかったのは、職業によって、自分に合うものと合わないものもあるから。

<りんご保育園>

○いろんな仕事を体験してみたい。そして、楽しさ、苦労とかを新聞に書いてみたい。

<大育幼児学園>

○今回訪ねていない仕事にもチャレンジしてみたいから。

○やってみたいけれど、受験をひかえているから、そんなに多かったら困る。

<ローソン>

○まだ、ローソンしかやっていないので、他のちがう仕事の苦勞も知ってみたい。

<ホットスーパー>

○今までやってきて、やるたびにいろいろな苦勞がわかったから。

【あまりやりたくない】

<大育幼児学園>

○2日目に言葉が少ししゃべれるようになった子を担当してとっても大変だったし、自分では、あまり楽しいと思わなかったから。

<ローソン>

○もしかしたら、店の迷わくなるかもしれない。

<ガソリンスタンド>

○完全にいやではなく、自分からやるのではなく習われてやると思うから。

【全くやりたくない】

<県立埋蔵文化財センター>

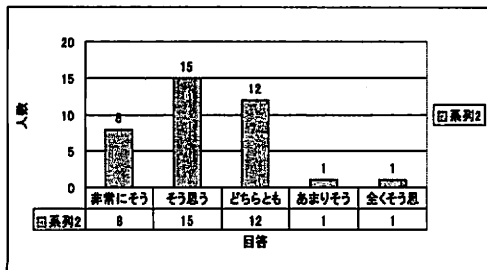
○面識のない人に世話をかけると、よけいに悪く思われてしまうと困る。

<考察>

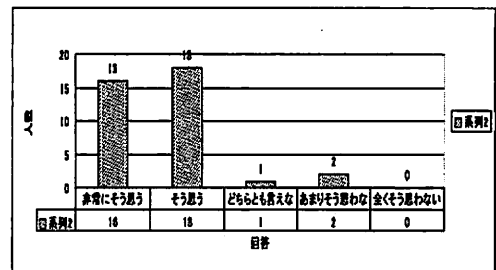
体験学習は、店の迷惑になるかもしれないという危惧の声もあるが、体験学習の意義については、大多数の子どもが認め、体験学習を通して得られた様々な学びをさらに深めたいと願っている。職業体験を再度「ぜひやってみたい」「やってみたい」と回答した子は、33名であり、全体のほぼ9割である。

B. 勤勞観

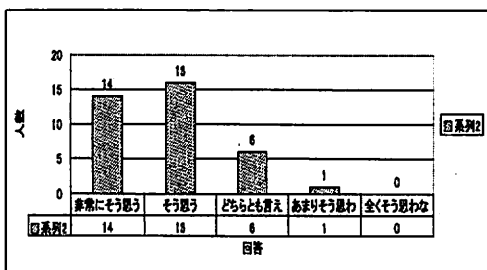
問3 いらない仕事などなく、どの仕事も社会に役立っていると思う



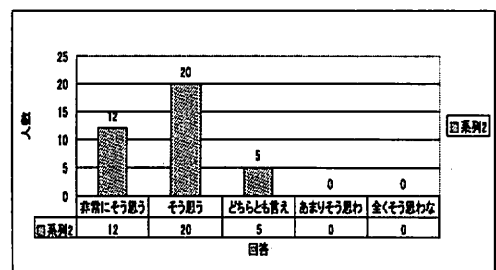
問4 おとなは、どんなつらい仕事でもがんばっている



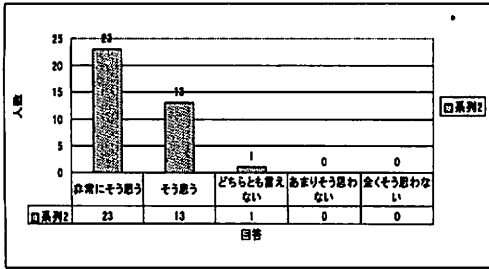
問5 働いている人は、それぞれに誇りをもって働いていると思う



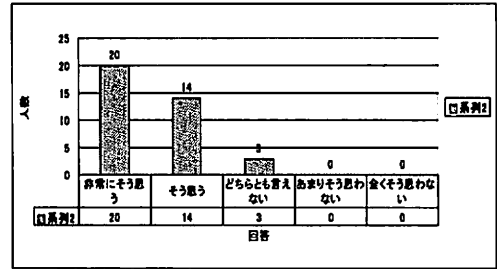
問6 働いている人は、難しいことでも最後まできちんとやり通していると思う



問7 働いている人は、協力し支え合ってがんばっていると思う



問8 おとなは、自分の仕事に責任をもってがんばっていると思う

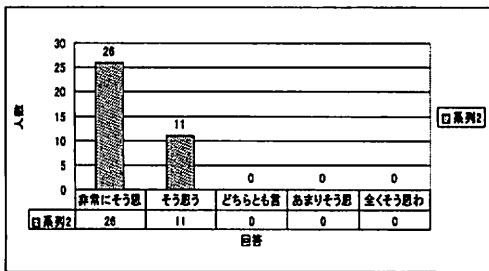


<考察>

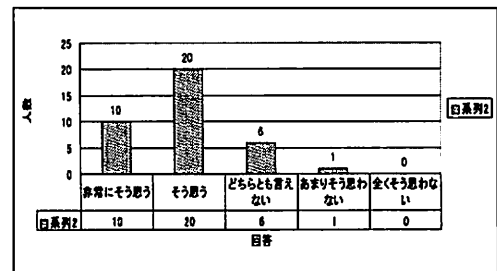
アンケート調査から見る限り、子どもたちは、働いている人は職場で協力し支え合い（問7）、責任をもって頑張っている姿（問8）をみている。また、働く人は、自分の仕事に誇りをもち（問5）、つらい仕事でも頑張っていることに理解を示している（問4・問6）。仕事の社会的有用性については、見解の相違が表れている（問3）。

C. 父母に対する勤労観

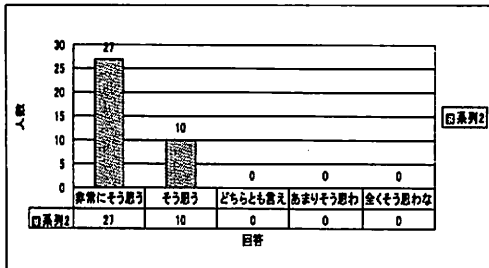
問9 親（父母）は、毎日働いて大変だ



問10 親（父母）の苦勞がわかるような気がする



問11 親（父母）は苦勞して、お金をかせいでくれていると思う



<考察>

体験学習を通して、親（父母）の大変さ（問9）、賃金を得ることの苦勞（問11）について「非常にそう思う」「そう思う」を合わせて回答した子は全員であった。自分自身の体験学習と重ね合わせて、働くことの意味と大変さを肌身を通して感じ取ってくれた結果であると同時に、「大人は、楽をしているのではない」ことを一定程度理解したようである（問10）。

D. 自己変容の認知度

今回の体験学習を通して、あなた自身が変わったと思うところがありますか。

- ・あいさつと言葉使いがよいになった。
- ・仕事について、自分の考えを持つようになった。
- ・人と協力することができるようになった。
- ・物を大切にするようになった。
- ・働く人（親）への思いやりが強くなった気がする。
- ・人と関わるのが苦手じゃなくなった。

- ・大人に対してあいさつができるようになった。
- ・小さい子と遊ぶようになった。
- ・妹を褒めることが多くなった。
- ・妹に対して少しやさしくなったような気がする。
- ・友達に対する信頼感が深まった。

- ・お母さんの手伝いをするようになった。
- ・責任感や協力する心がわいたような気がする。
- ・恥ずかしさが少なくなった。
- ・将来、仕事をしたいという気持ちが高まった。

<考察>

子どもたちは自己の行動変容を、自分自身が体験した職業内容との関連でとらえている。例えば、保育園で職業体験した子は、自分の妹や小さな子に対して世話しようとし、接客を中心とする職場で体験した子は、(他者に対する) 恥ずかしさがなくなったこと、人と関わることの苦手意識を克服しようとする態度の変容がみられた。職業体験を通しての「自己変容」の度合いを認識した子は、全体の2/5程度である。

E. 体験学習に対する要望

今回の体験学習を終えて、実施方法や内容などについて次回はこうして欲しいという要望があれば書いて下さい。

<学校・担任に対する要望>

- ・体験学習の期間・時間をのばしてほしい。
- ・4日間ぐらいほしい。
- ・受け入れ先の範囲をもっと広げてほしい。
- ・学校に登校して、それから、受け入れ先に行き、終わったら学校にもどるのではなく、直接、家庭から受け入れ先に行きたい。
- ・帰りだけ学校に集まり、朝は、そのまま行きたい。
- ・体験学習中の給食費は、免除してほしい。
- ・もっと多くの人数で行きたい。

- ・記録用のカメラを増やしてほしい。
- ・子どもが直接交渉して受け入れ先を決めるのではなく、先生がどこにするのかを決めて(予約して)、体験学習をしたい。子どもが勝手に働かせて下さいと言うのは少々生意気のような気がするから。

<受け入れ先に対する要望>

- ・いろいろなことをやらせてほしい。
- ・最後の日は、おもいっきりさせてほしい。
- ・もう少しやることを増やしてほしい。

<考察>

学校・担任に対する要望を集約すると、体験学習の日程をより長期化すること、受け入れ先は学校近郊と限定するのではなく、広範囲の中から選定させるべきだということである。受け入れ先に対する要望は、単に子どもを受け入れるだけでなく、子どもの体験学習に対する意欲を高め満足させるためのメニューを準備することも求めている。その意味で、学校・担任は、事前に受け入れ先と学習内容を十分検討する必要がある。

6. 成果と課題

個々の子どもの希望する職業体験を、「総合的な学習の時間」を活用して子どもの発想と主体的な計画のもとに実践してきた。その後、コンピュータの機能を活用して職業体験をまとめ、発表会を開催、学級のホームページから情報を発信した⁽⁶⁾。以下、これまでの実践の成果と

課題を箇条書きに記しておく。

<成果>

○様々な職種にふれ、実際に職業体験を経験した子どもは、「職」に携わる人々から、「職」のもつ面白さや「職」に携わる意味-生きがい、喜び、生活をするために大切なこと等-を学ぶ

機会を得た。このことは、多種多様な「職」に関わる人々との直接的な交流を通して、子どもが学べる貴重な体験学習の場となっただけではなく、「職」に従事する自分の親に対してもあらためて見つめ直す機会となった。

○子ども自身に、自己の職業観について多面的に考える機会をもつことができたことは、小学校における進路学習の有効性を意味するものである。

<課題>

○小学校における職業体験の有効性を指摘しつつも、実際に、体験学習を計画する際には、地域・父母の協力、子どもの安全確保についても十分な配慮が必要である。

【注及び引用文献】

- (1) 「琉球新報」2000年8月30日、朝刊。
- (2) 松本哲「嘉手納町における『ふれあい・チバリ・ワークデー』の教育的効果」2001年。
- (3) 「琉球新報」2001年7月4日、朝刊。
- (4) 大浜覚（現在、竹富町立大原小学校）は、前任校の具志川市立田場小学校において進路学習の一環の中で職業学習を展開し、小学校においても職業体験を実施する意義を強調している（大浜覚「目的意識を高め主体的に行

動する子どもの育成—学級活動における進路学習を通して—」（第9回沖縄教育学会自由研究発表資料）2001年8月25日）。今後益々、小中高校を通じた系統的な進路学習の計画と実践が重要になるものと思われる。

- (5) 夏季休業中の自由研究であった体験学習であったが、子どもたちは、自宅近郊あるいは父母の職場に積極的に参加した。母親の勤める公立幼稚園で体験学習した女兒は、学期末の大掃除、水遊びの準備、幼稚園生の世話、運動会の練習の準備等を体験し、また別の女兒は、自宅近郊のペットショップで、小動物のシャンプーや小屋の清掃、餌上げ、店内の清掃等を経験している。ちなみに、学級の子どもたちが体験した職場は次の通りである。保育園、マクドナルド、A&W、印刷所、ツタヤ、カネヒデ、病院、ヤクルトセンター、生協、うなぎ専門店、農業（菊畑）、スイミングスクール、老人ホーム。
- (6) 職業体験をした各グループは、ホームページ制作ソフト（コンポーザー及びホームページ・ビルダー）やプレゼンテーションソフト（パワーポイント）を活用して情報を制作し、学級のHPから情報を発信している（<http://www.els.u-ryukyu.ac.jp/>）。